

# これからも学校と地域のきずなを活かして、 世代交流の場をどんどん増やしていきたいですね

今年で 32 回を迎える大運動会は、年代を問わずみんなが参加できる名物行事。学校と地域とが連携して、世代交流の場を作ることの大切さとは？歴史ある大運動会のエピソードから、地域への想いまで話は盛り上がり……

幌西地区連合町内会 会長 **田中 光夫** × 幌西地区連合町内会 総務部長 **原 寿子** ×  
幌西まちづくりセンター 所長 **丹尾 結子**

—運動会は今年で 32 回を迎えましたが、大変なことなどありますか？

田中 (中)：毎年幌西小学校のグラウンドをお借りして開催しているのですが、昔のグラウンドは水はけが非常に悪かったんですね。前日に雨が降ると、あちこちに水たまりができるので、みんなでタオルを敷いて水を吸い取ったんですよ。あれは本当に大変でした。

原 (右)：運動会が終わった後に行う、ご苦労さん会の準備もありますから、天気は気になりますね。朝からご飯を炊いておにぎりを作ったり、商店の方がスイカを冷やして持ってきてくれたりするのですが、昔開催の花火をあげた後に、雨が降ってきたことがあって。女性部の人は「お米はどうしますか？」って来るし、商店の方も「スイカは冷やすのかい？」って走ってくるし、もうどうするんだいって (笑)。それで中止の電話をしかけたら、パッと雨があがって、田中さんが「やる！」って。それで運動会が終わった時に、またザーザーと降ってきたんですよ。あれは、気合いで晴らしましたね (笑)。

田中：この運動会のおかげで、学校を含めた地域のきずなが深まっている感じはしますよね。年代を問わず、みんなが参加でき、地域と学校、家庭が一体になれる行事です。

—思い出に残っているエピソードなどはありますか？

原：馬の頭をつけた長い棒に、数人がまたがって競争する「幌西ダービーリレー」という競技があったんです。この馬の頭が本格的できらびやかで、紅白の手綱をつけて走るのですが、一回走ると首がもげる (笑)。

田中：あまりに首がもげて危険だということで、今年からは大玉リレーになってしまったんですね。大玉リレーも盛り上がりましたが、「幌西ダービーレース」は名物競技だったので、なくなったのは少し惜しい気もします。

丹尾 (左)：まちづくりセンターがまだ連絡所だった時代に、優勝トロフィーを連絡所に置き忘れるというエピソードもあったそうです。開会式の最初にトロフィー返還をするので忘れると大変。私は今年初めて参加しましたが、トロフィーだけは忘れないように!とっていました。

田中：一昨年、トロフィーも新しくしたんですよ。それまでは 30 年近く使っていたから、ボロボロで、とてもトロフィーと呼べる代物ではなかった (笑)。

丹尾：最後にお米などが当たるくじ引きも、町内会の運動会ならではの。幌西小学校の先生による、司会や突撃インタビューもみんなが楽しみにしています。

—最後にまちへの想いをお願いします。

丹尾：幌西地域で育つ子どもたちって、このまちの思い出がいっぱいできると思う。運動会だけではなく、子どもが参加できる地域行事が本当に多いんです。そして登下校時の声かけや、青色回転灯搭載車のパトロールも盛んですから、地域の人に見守られて育っていることも、子どもたちに自然と伝わっていると思う。このまちへの愛着を、子どもたちへ引き継ぎたいという地域の方々の想いを、私もお手伝いしていきたいです。

田中：私の理想は、子どもとお年寄りがいろいろな形で関わって、協力し合うような町内会。それには学校の理解が一番大

事だと思う。幌西地区は学校と地域の連携が強いですね。先日、老人クラブと幌西小学校の子どもたちが交流学習をして。こういう話を聞くと、とてもうれしい。私は親子三代幌西小学校に通っているの、共通の話題があってコミュニケーションも非常にとりやすいです。私の親族も「幌西地区に住みたい」と言って、今続々と集まってきていて。土地と家を探しているんですけど……原さん、どこかに土地ありませんかね？

原：土地と言えば、町内には市の保有する土地などもありますが、町内の人たちが集える場所がもっとあるといいで

すね。学童保育所や児童会館もそこに入って、老人クラブもそこで活動して。年齢差のある人たちが同じ場所で活動できるようにする。お年寄り子どもたちとのふれあいができると、必然的に子どもの親も関わりができて、大きなつながりができますよね。

田中：老人クラブと子どもたちとの交流も始まりまして、そういった交流がより日常的になるといいなと思います。これからも学校と地域のきずなを活かして、世代交流の場をどんどん増やしていきたいですね。



行事写真提供：幌西まちづくりセンター

お問い合わせ先 ★ 幌西まちづくりセンター / 札幌市中央区南 11 条西 14 丁目 1-20 TEL 011-561-3256 8:45~17:15

丹尾さんがかぶっている帽子は、「なかくレツツゴ」 という競技の時に使用する「じゃんけんマン帽子」というものだそうです。町内会の運動会、楽しそうですね。 ※ここに掲載できなかった取材時のお話は以下のアドレスで聞くことができます。 [http://www.sora43.jp/sound/machi/vol\\_72.mp3](http://www.sora43.jp/sound/machi/vol_72.mp3)

## まちセン info

地域の方々が行う活動や行事の支援などを行っています!

地域のまちづくり活動の拠点となるのが「まちづくりセンター」。地域の方々の活動がうまく進むよう支援したり、必要な情報を収集・提供したりしている。その他にも、地域で活動する団体をゆるやかに結びつけた「まちづくり協議会」の設置・運営のサポートや、身近な所では住民票などの諸証明の取り次ぎサービスも。詳しくはホームページを見てみよう。 <http://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/>